

令和5年度 第4回 エルシーブイ放送番組審議会

■開催日時 令和5年3月14日(木) 午後4時00分～午後5時30分

■場所 駅前交流テラス「すわっチャオ」 多目的スタジオ

■出席者 委員総数 5名

出席委員	市川 純章	委員
	河西 滋子	委員
	赤沼 喜市	委員
	井上 淳哉	委員
	菊池 大介	委員

放送事業者側 (10名)

深井 賀博	代表取締役社長
大野 弘信	専務取締役
八幡 聡	放送制作部長
小池 利幸	放送制作部 報道課長
佐野 銀次朗	放送制作部 制作課長
吉田 和晃	放送制作部 FM制作課長
早川 達朗	放送制作部 編成課長
國枝 翔馬	放送制作部 制作課
國枝 志保	事務局 (欠席)
内藤 由里子	事務局

■議 事

1. 審議事項

【審議番組】 『◆キラリ◆JUMP I E S』

<委員からの主な意見>

□評価意見

- ・ちびゆりさんが明るく元気で、子どもたちも表情が豊かに楽しくできていて良かった。
- ・ちびゆりさんをリポーターに起用することで、番組に明るさが出て、子どもたちの表情を上手く引き出してすごく効果的であった。
- ・子どもたちの楽しい雰囲気や表情で緊張していない感じが伝わった。作り方、見せ方が上手くいって観ている側にもそれが伝わっていると思った。
- ・基本となる番組構成はあるが、内容に合わせ臨機応変に取材対応されている。ゆっくり楽しめる番組に繋がっていると思った。
- ・岡谷東高校ダンス部の回では、本格的にダンスを習おうとしている高校生たちに対してもしっかり指導をしていた、ちびゆりさんの事が良く分かり感心した。
- ・ちびゆりさんが踊り方（ロックンロール）を指導した際、ビフォーアフターを画面上下で比較映像として表示され分かりやすかった。
- ・テロップや説明も多く表示されていたので初めて聞いたような言葉も理解できて良かった。
- ・画面フレームデザインも若者向けに作られており、字も見やすく安心して観られた。
- ・フレームを使って絵を出したのも、ただ撮って流しているようではない見やすさに貢献しており、すごく良かった。
- ・絵の作り方、構図もハイクオリティで違和感なく、適切で観ていて心地良かった。
- ・企画の狙い通りに子ども達が映っており、その雰囲気がきちんと映し出されていて良かった。
- ・番組尺も長すぎず短か過ぎず、ちょうど良いと感じた。
- ・少人数のスタッフで回しており、手探りしながら制作していることもローカルテレビ局しかできない事なので良いと思った。
- ・ディレクターを3人で回すことで疲れなく、月2回の更新が出来るのかと思った。
- ・各団体やクラブ紹介は番組を見てやりたいと思うきっかけになればという制作の趣旨に合っている。また、この番組尺で制作が続けられるのであれば本当に良い番組だと思う。
- ・コロナが明けて子供たちが楽しそうにマスクを外して活動している姿は、地域の人にとっても観ていて楽しくなるものだと思う。
- ・高校生はSNSに長けているので、部や部員のSNSをしっかりとリツイート拡散してもらい、テレビに出る事が彼ら彼女らの活動実績になる。うまく誘導すれば、番組をきっかけにテレビ局と子どもたちが繋がる良い機会にもなる。
- ・取材時に番組案内チラシを配布している点も工夫なのかなと思う。また、親御さんのネットワークでも共有される期待もある。

- ・番組の工夫点が全て番組内に活かされていて良かった。
- ・早送りしたい感ゼロで良かった。
- ・大声大会も、番組のアクセントとして 15 分を間延びさせない工夫。臨機応変にチャレンジさせたり、チャレンジしてみたりで良かった。
- ・誰が観ても楽しい番組だと感じた。
- ・子ども達の真剣な表情をたくさん映す、全員が必ず映る、記念に残せる番組にする。それが本当にその通り活かされていて楽しい番組だった。

□指摘意見

- ・ちびゆりさんが野球体験をする場面で、外野の守備やピッチャーの投げた球を打つ場面があったが、初心者であるならば、キャッチボールやトスバッティングくらいから始めて、一生懸命やっている姿を見せると良かったと思う。
- ・失敗すると笑ってごまかすところが見受けられたが少し気になった。大人が入ってきて娯楽番組的に楽しくやるのもあるが、指導者的な感覚である場面を見ると一生懸命に子どもが練習しようとしているのにどうなのかと思う。ちびゆりさんの運動神経が良かったりするのであれば、余計に一生懸命に取り組んでいるところが出た方が良いと感じる。
- ・カラーのフレームは観ていて色が濃すぎると思った。もう少し落ち着いたパステルカラーを使った方が画面に集中できると思う。
- ・トリビア的な話題があると良いと思った。野球の回は、子どもに喋らせていたけどテーマが無く番組的に退屈感が出てしまうので、もう少し取材して面白い話題を加え、気になった点を掘り下げても良いと思う。
- ・ダンスの場面では、ちびゆりさんに教えてもらっていた時に大会があると話題があったので、その後どうなったか観てみたいと思った。吹奏楽部なども大会があるので、ここで登場した人たちがこうなると追って紹介があると合間埋めにもなるのではないか。

□その他

- ・ちびゆりさんを紹介する回があっても良いのではと思った。
- ・若い子の方が情報端末を扱うのが上手いので、こちらからネタを追わなくてもイベントや大会がある時にすぐ連絡を貰える様にしておけば、その時に取材に行けば良いので手間も掛からないし、子どもたち主体の番組づくり、地元テレビ局の出来ることだと思う。また、この様な繋がりが番組を観たい、応募してみたいと思うのではないか。
- ・SNS が強い世代に対してどう番組を広めてもらうかという、愛媛朝日テレビの取材陣が高校生たちに人気が出た例がある。取材をする際、一緒に TikTok 撮ってくれませんかという、生徒たちが喜んで踊ってくれる。それを逆に高校生や中学生が仕掛けてきて、取材している風だけど一緒に踊っている面白い動画を撮らせてもらえませんかと逆に撮影される。彼ら彼女らの懐に入って当事者が面白がって広めてくれる流れがある。その様なメディアの使い方や広める方法は、彼ら同世代で横の繋がりを期

待しても良いと思う。

- ・取材に来ることが小中高校生のイベントになって、番組に愛着が出てくると我々が思いもよらないような広まり方や面白がり方が出てくる。
- ・諏訪実業高校ファッションショーも取材して頂けるとダンスとコラボして面白い映像が撮れるのではないかと思う。
- ・吹奏楽部やダンス部は演目をもっているので取材しやすいと思うが、スポーツ系はそういう意味では苦しい。何か演じるものがある訳ではないのでディレクターの知恵の出どころと思う。
- ・取材される事が名誉になるくらい、クオリティを保つ価値のある番組であって良いと思う。

以上